

# 東高 国際だより

平成31年2月15日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行  
2018 vol. 10

## 2年国際文化コース 志楽小学校「英語レクチャー体験」(2月7日)

国際文化コースの2年生が、志楽小学校の4年生の児童に対し英語を楽しんでもらう活動を行いました。授業は「時間の表現」と「色・形の表現」の2種類です。

「時間」については、1～20の数字と「今何時ですか」「何時です」の英語を教えたあと、What's the Time, Mr. Wolf? のゲームをしました。内容は日本の「だるまさんがころんだ」の遊びに近いものです。「色・形」については、丸・三角・四角と赤・青・黄など色の英単語を教えたあと、児童に色・形の組み合わせのビンゴゲームを楽しんでもらいました。



### 【生徒の感想】

川道 嶺 君 (青葉中学校出身)

初めて小学生に英語を教える機会がありました。自分達が教えたのは4年生だったけれども、思っている以上に飲み込みが早く、スムーズに授業が進めることができました。授業内容を役割分担していたので、担当以外の場面で小学生にどういった対応をすればいいのか分からない状況がありました。学校の先生の大変さを知ることができました。

横山 碧海 さん (白糸中学校出身)

志楽小学校でのレクチャー体験で教えることの難しさを実感しました。私達のグループは数字と時刻を表す表現を教えました。特に時刻の聞き方、答え方はなかなか言葉だけでは理解してもらいにくく反応も微妙でしたが、What's the Time, Mr. Wolf? というゲームを通してしっかり理解してもらえ、楽しく活動を行うことができました。

## もうすぐ卒業する3年国際文化コースの生徒にインタビューしました

- ① なぜ国際コースを選びましたか
- ② 国際コースで学んでよかった点は何ですか
- ③ 国際コースで一番心に残ったことは何ですか

鯛 海音 君 (和田中学校出身)

① 中学校のときから英語に興味があり、英語のスキルを高めたかったためです。また、国際文化コースは他のクラスよりも英語の単位数が多く、研修旅行も台湾であることも大きな理由です。

② 2点あります。1つ目は英語を話す・聞く・書く機会が多く、英語の力がついたことです。2つ目は異文化に接する機会が多かつ



たことです。日常ではあまり体験できない活動を体験できたことは自分のプラスになりました。

- ③ 台湾への研修旅行が一番心に残りました。中でも現地の高校生や大学生と交流ができ、日本の文化と台湾の文化の共有が図れました。同時に外国人との交流の難しさと大切さを学ぶことができました。

壁舘 里歩 さん (白糸中学校出身)

① 元々英語が好きで、話せるようになりたかったからです。また、このコースでは日本文化という授業があり、外国の文化だけでなく日本の文化の歴史などを詳しく知ることができる良い機会だと思ったからです。

② 他のクラスにはない英語会話、異文化理解、日本文化の授業を通して、たくさんの新たな知識を得たり、初めての体験をすることができたことです。

③ 研修旅行で台湾に行ったことです。現地の学生と英語で会話することは難しかったけれども、楽しく過ごせました。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。



## 東高先生の Another Sky 9回目 田中 志津代 先生(英語科)

Brisbane, Australia

2年前、久しぶりにオーストラリア、ブリスベン空港にたった一人で降り立った。迎いの姿は無い。電話をかけようにも現地の小銭が無い。近くの売店でキャンディーを買い、さあ電話、と思ったが、かけ方がわからない。再び売店に行き電話のかけ方を教えてもらい、ホストファミリーに電話をかけた。1ヶ月通う予定の大学のスタッフが来ているはずなのに、結局1時間ほど遅れてやってきた方に案内されてやっと落ち着いた。自宅を出て16時間ほどかかっていた。(最短だと10時間ほどです。)

ドキドキのスタートだったが、その後の1ヶ月留学生活は最高だった。以前、幼い子供を連れて Great Barrier Reef や Sydney, Gold Coast を訪れた時には単なる通過地点にすぎなかったが、今は、もし日本列島が沈没するなら、ぜひここに移住しようと心に決めているほど、非常に住みやすい街である。

ホームステイ先や大学、行く先々で出会った人々のやさしさと暖かさ。例えば道を訪ねれば全員が笑顔で教えてくれて、お礼を言うと必ず "It's my pleasure."。公共交通機関はイコカのようなカードで安く乗れるので係員と話す必要はほとんど無いにもかかわらず、降りるときには "Thank you." "See you." と出会う人全てが乗務員さんと笑顔で言葉を交わす。

そして何よりその生活のしやすさ。上記の交通カードは10回使えば週末はどこまでも無料。公共の公園、博物館、植物園などもほとんど無料。その分税金も高いそうだが、福祉が充実しているので不満は無い。夜の散歩中も危険を感じることは全くなく、ゴミも落ちていない街だった。

そしてUluluを始めとする大自然の雄大さにもより一層魅せられた。

Host family とはその後も交流が続いている。大学ではアジアの各地から集まった中高の教員との交流もあった。場所は変わっても同じ地球人として自然を大切に、人を大切に、自分をもっともっと高めたいと思える時間だった。

外国へ行くとその土地での素晴らしい出会いや経験だけでなく、日本に対する新たな発見もたくさんあります。国外に限らず、自分の範囲を勝手に決めず、一步踏み出せば、もっと素敵な自分に出会える、そう思います。皆さんも、これからの長い人生、どんどん一步踏み出して欲しいと願っています。

